

Tatebayashi

広報たてばやし



Vol.1323

伝統を未来へー



【特集】 つむぎで、つむぐ	02
保険証の新規発行は12月1日で終了します	08
11月14日(木)から「書かない窓口」を試験運用	10
子どもの受験料・模擬試験費用を補助	12
館林市産業祭を開催	12

伝統を守る

山岸織物



山岸美恵さん
(写真右)

山岸清さん
(写真左)

—特集— つむぎで、つむぐ



—私たちにとって、館林紬は「生きがい」です

皆さんは「館林紬」を知っていますか？名前は聞いたことがあるけれど、どんなものなのかは分からないという人も少なくないのではないのでしょうか？

館林と紬

館林地域は、江戸時代から綿花栽培が盛んでした。農家の副業として機織りが行われ、城下町には多くの絹屋商人がいました。そんな館林で生み出されたさまざまな織物の一つが、昭和25年頃に出回り、瞬く間に人気となった「館林紬」でした。

全国一!?人気の理由

館林紬には大きな特徴が2つあります。1つ目は、綿100%の木綿紬であること。木綿紬はその素材上、「夏は涼しく冬は暖かい」、「丈夫で扱いやすい」、「肌によさしい」といった性質があります。2つ目は、唐棧縞と呼ばれる縞模様です。シンプルながら、多色使いの細やかな配色まで、実にさまざまなデザインがありました。

こうした特徴を併せ持つ館林紬。人気の理由は、「親しみやすさ」でした。普段着として着物を着ていた当時、やわらかく着心地のいい素材や、

館林の伝統工芸品が途絶える？

やさしい色を使った多様なデザインが家庭着にはびつたりだったのです。「群馬の織物」(1952)では、「昨今来全国一の売れ行きを見せている」とあり、当時の盛り上がりが見分かります。

時代の変化と衰退

全盛期には全国的に広まった館林紬でしたが、洋装の定着などによって、生産量はめっきり減少してしまいました。現在市内で館林紬を扱う織物業者は1軒のみ。しかし、その唯一の業者である山岸織物でも、生産はすでに途絶え、高齢化や後継者不在などの問題にさらされています。

館林の伝統が途絶えかけた今。市内では「館林紬を残そう」という動きがあります。今回は山岸織物のほか、市内の合同会社・組、県立館林商工高等学校の皆さんに話を伺いました。



鮮やかな唐棧縞の端切れを貼り並べた「縞帳」。製造業者が作成・保管し、問屋への製品見本として活用されました。(山岸織物所蔵)

明 治25年創業の山岸織物。時代の変化や後継者不足に伴い、本市最後の織物業者となった現在も、館林紬の反物や小物などを取り扱っています。

—山岸織物について教えてください—
かつて邑楽地方は綿織物産地として栄えていて、館林地域には有数の織物業者が存在していました。また、織物は作業工程が多く、各織物業者による分業で製品を作っていて、山岸織物もその一つでした。業者ごとに細かい役割がある中で、山岸織物では主に色や柄、織り方などを企画し、指示する役割を担っていました。昭和中期頃には、10年ほど織っていたこともありました。

ですが、昭和後期頃、着物文化の衰退に伴い館林紬の生産量が減ってしまっていました。織り手がいなくなった今は新しい反物を作ることができなくなっていました。

—現在はどうしているのですか？—
これまで作ってきた反物がもったいないと思つたので、それを使ってシャツや帽子、ネクタイなどを制作してみました。最近、館林紬が日本遺産「里沼」の構成文化財の1つに認定されて、そのおかげもあって、遠方から商品求めて訪れるかたも増えたんですよ。館林紬に興味を持

ってもらえることが増えてきたように感じています。

それから、館林紬を通じて出会った若い人の発想やパワーには、ぜひぶん背中を押されたいですね。最近では、市内の小学校や婦人会でワークショップなどの活動も行っています。

—山岸さんにとって「館林紬」とは？—
「生きがい」です。館林紬を通じて、これまで本当にたくさんの人と関わる事ができました。おかげで毎日楽しく過ごせています。館林紬は織物だけでなく、人との繋がりも紡いでくれました。

—最後に、「館林紬」の展望を聞かせてください—
正直、新たな色や柄の「館林紬」を生み出すことは難しいと思つていました。そんな中、なんとか伝統を繋ぐと活躍されているかたの存在があることがとてもうれしんです。若い人を中心に興味を持ってもらい、「館林紬」の名を後世に残し続けるために、この素晴らしい伝統を守り続けたいと思います。



現存する反物で作られたシャツや帽子などの館林紬商品。親しみやすさはそのまま、現代風に仕上がっています。

伝統を繋ぐ

「好きなこと、得意なこと、伝統が繋がる」

地 元館林で館林紬と出会い、その魅力に惹かれたという2人。伝統が途絶えたかった現状を知り、「館林紬の再興」を目指して、昨年7月に合同会社紬・組を設立しました。紬・組では、親交のあった山岸織物から素材や活動拠点などの提供を受けています。

「館林紬や山岸織物との出会いを教えてください」



飯塚はる香さん
(写真右)

合同会社 紬・組

安楽岡紀子さん
(写真左)

安楽岡 もともと山岸さんの家のご近所でした。「織物屋さん」だとは知っていましたが、その程度の認識だったんです。館林紬を再認識したきっかけは、幼い頃から好きだった「ものづくり」。素材に使うのと同じ、館林紬の端切れを買いました。そのときにあらためて縞模様的美しさに目が留まり、地元こんなに素晴らしい伝統織物があることや、それを現在唯一扱っているのが山岸さんだと知ったんです。**飯塚** 私は大学時代から地元を離れていて、館林紬を知

たのは、実は会社を設立する半年ほど前だったんですよ。知り合いに教えてもらって、私は服飾関係の仕事をしているので、製法や歴史が気になって調べ出しました。そこで安楽岡さんや中村さん（紬・組の創業メンバー）の存在を知って、山岸織物を知ったのはその後のことでした。**館林紬**を知ってから**紬・組**を結成するまで、かなりスピード感があつたんです。**飯塚** 使命感を感じたんです。千年続いてきた伝統が今、自分たちの目の前で途絶えよう

としている。このままでいいの。かつて。気が付いたら、安楽岡さんと中村さんの前で、この先のビジョンについての資料を作ってプレゼンをしていました。**安楽岡** まさに勢い。エンジンが搭載された！という感じでした。私は館林紬の気取らない美しさと木綿ならではのやわらかさがとつても好きで、それぞれの得意分野を活かして、会社にする。それで伝統を繋げられる、新しいものを生み出せる、そう思ったからワクワクしました。

「紬・組ではどんな活動を？」

安楽岡 これまで館林紬を使った商品の開発や販売、ワークショップの開催などを数多く行ってきました。また、企業や行政、高校生とのコラボレーションも行い、地域を巻き込んだ活動をしています。

現在は、山岸さんからお借りした築約100年の古民家を、活動拠点「ツムギトエンガワ」として絶賛改装中です。ツムギトエンガワには、数台の織り機がありますが、あれは、「織り機を使用して生産を始めたい」と各方面に話

していたら、地域のかたが譲ってくださったものなんです。

飯塚 有り難いことに、声をかけていただけの機会が本当に多くて。最初は3人で始めたけれど、想いに共感して、協力してくれる人がこんなに多いんだって感動しました。自分たちの信じた道は間違えていなかったんだと、確信に変わりました。

「今後の目標を教えてください」
飯塚 目標は、「この街でもう一度、紬を織る」ことです。私たちの活動内容は多岐にわたりますが、今行っている全

ての活動が、その目標に向けた取り組みなんです。

安楽岡 織り機も、体験用というよりは、いつか「教室」として使用したくて。この街に「紬を織れる人」が増えたいなと思っています。

飯塚 まずは、現代の生活に合った形で館林紬を取り入れ、認知度の向上を目指しています。生産を復活させても、時代に合わなければ、すぐに廃れてしまいますから。**安楽岡** 長い道のりではありますが、一歩一歩、着実に進んでいきます。

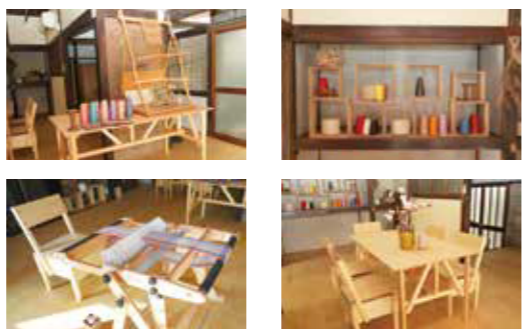


「この街でもう一度、紬を織る」



にち にち りん
日日凜®
再興プロジェクト象徴の柄。山岸織物所蔵の館林紬の柄から1つが選ばれました。紬・組では、日日凜をベースにした商品を豊富に展開しています。

表紙の背景にも登場した ツムギトエンガワのイマ



紬・組の活動内容などについて、詳しくは公式ホームページをご覧ください▶



合同会社 紬・組

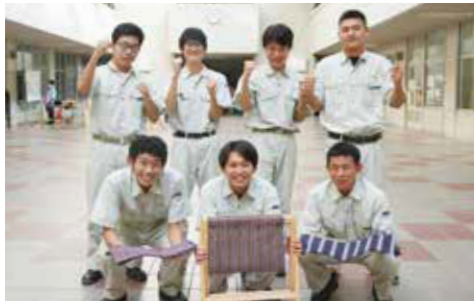
令和5年7月創業。代表社員は、ビジネスホテルを経営する安楽岡紀子さん（写真中央）、バングラデシュでアパレル業を営む飯塚はる香さん（写真左）、設計事務所を営む中村喬さん（写真右）。伝統織物への尊敬を源に活動する地元有志。多方面と【組】むことで、館林紬の輪を広げています。

伝統を未来へ

県立館林商工高等学校 工業系 課題研究 ものづくり班

同校では、工業系にも館林紬と関わりのあるグループがあります。彼らは専門である「ものづくり」を通して、館林紬の認知や普及に貢献しています。

館林紬グループ



館林紬を使ったマガジンラックを制作し、日常への普及を図っています。完成品は市立図書館や市内中学校などに寄贈する予定です。

移動式屋台グループ



紬・組や館林紬班（商業系）が行うワークショップ、商品販売などに役立ててもらうため、移動式屋台を制作しています。



県立館林商工高等学校 商業系 課題研究 館林紬班

—まずは校内へ、後輩へ、繋げます

山 岸織物、紬・組と繋がれたパト
ン。それを受け取り、未来へ繋
ぐのは、県立館林商工高等学校商業系
の「館林紬班」の皆さんです。彼女た
ちは、1年間で地域課題を発見し、ア
プローチを行う授業のテーマに「館林
紬」を選びました。

—なぜ、館林紬を選んだのですか？

「今までの先輩たちが研究したこと
のない分野。前例はないけど、せつか
くだから挑戦してみないか」と、先生
から紹介されたことがきっかけでした。
—館林紬のことはもともと知っていま
したか？

正直、誰も知らなかったんです。で
も、ネットで調べて、先生に協力して
もらって、山岸さんや紬・組のかたに
会って直接お話を聞くことができました。
館林紬の歴史や、思っていたより
も色や柄の種類が多いこと、日日照
色の意味などが分かって面白いと思
いました。

—今までの活動内容を教えてください
館林紬について学んでみて、生地を
使って、つまみ細工のリボンを作るワ
orkshopを開催したいと思っていま
した。それに向けた準備や、紬・組のイ
ベントのお手伝い、ツムギトエンガワ



ツムギトエンガワでの
機織り体験

での機織り体験などを行ってきました。
今は、館林紬を使った商品の校内販
売を行うための準備を進めています。
校内販売は、宣伝方法から自分たちで
考えるんです。校内放送、ポスター、
あとは自分たちで直接教室に行つて宣
伝もできるので、たくさん人を集めら
れるようにがんばります。

—館林紬班が目指すゴールと意気込み
を、どうぞ！

私たちの最終目標は、地元の方々
や校内のみんなに館林紬を知ってもら
うことです。そのために、まずは、私
たちの代で土台をしっかりと作る。「館林
紬」が、来年以降の後輩たちの選択肢
になって、誰かが興味を持ってくれた
ら、今年でできなかったことも、新しい
ことも進むようになっていきます。
年明けには校内発表があります。活
動できる時間は残り少ないけれど、で
きる限りまでこの代で進めて、後輩
たちに繋げたいです。



館林紬と出会ったきっかけも、
活動内容も、みんなバラバラ。
しかし、根底にある「館林紬を
守りたい・広めたい」という想
いはみんな共通です。
それぞれのきっかけが、活動
が、想いが、脈々と繋がって、
紡がれて、館林紬の歴史は過去
から現在まで長く続いてきました。
歴史や伝統を守ることは、難
しいことではありません。楽し
いから、好きだから、ふと気に
なったから……。どんなにつか
けであっても、興味を持つことや
一歩踏み出してみることが、伝
統や文化を守り、未来に繋がる
のではないのでしょうか。
そして、それはきっと、館林
紬に限ったことではありません。
身近にあるもの、当たり前前に
感じてきたものに、もう一度、
目を向けてみませんか？

【特集】つむぎで、つむぐ（完）